

研究推進計画

研究構想

教育目標

現在をよりよく生き、未来を豊かに生きる力の基礎を養う
「仰高」への力の育成

努力事項の研究推進

めざす子ども像

たくましい子
しっかり学ぶ子
うるわしい子

学力の向上

算数的活動

授業づくり

学習評価

読書活動

言語活動

豊かな
コミュニケーションの
取り組み

研修

公開授業

研究授業

人権教育の推進

平和教育

特別支援教育

情報教育の推進

総合的な学習

道徳教育の推進

各教科

- ・ 国語・算数の基礎の徹底
- ・ 言語活動

特別活動

環境づくり

研究主題

確かな学力を身につけ、自ら考え、活動する子どもの育成
～言語活動を軸として、表現力を高める～
—算教科を中心に—

PTA・地域

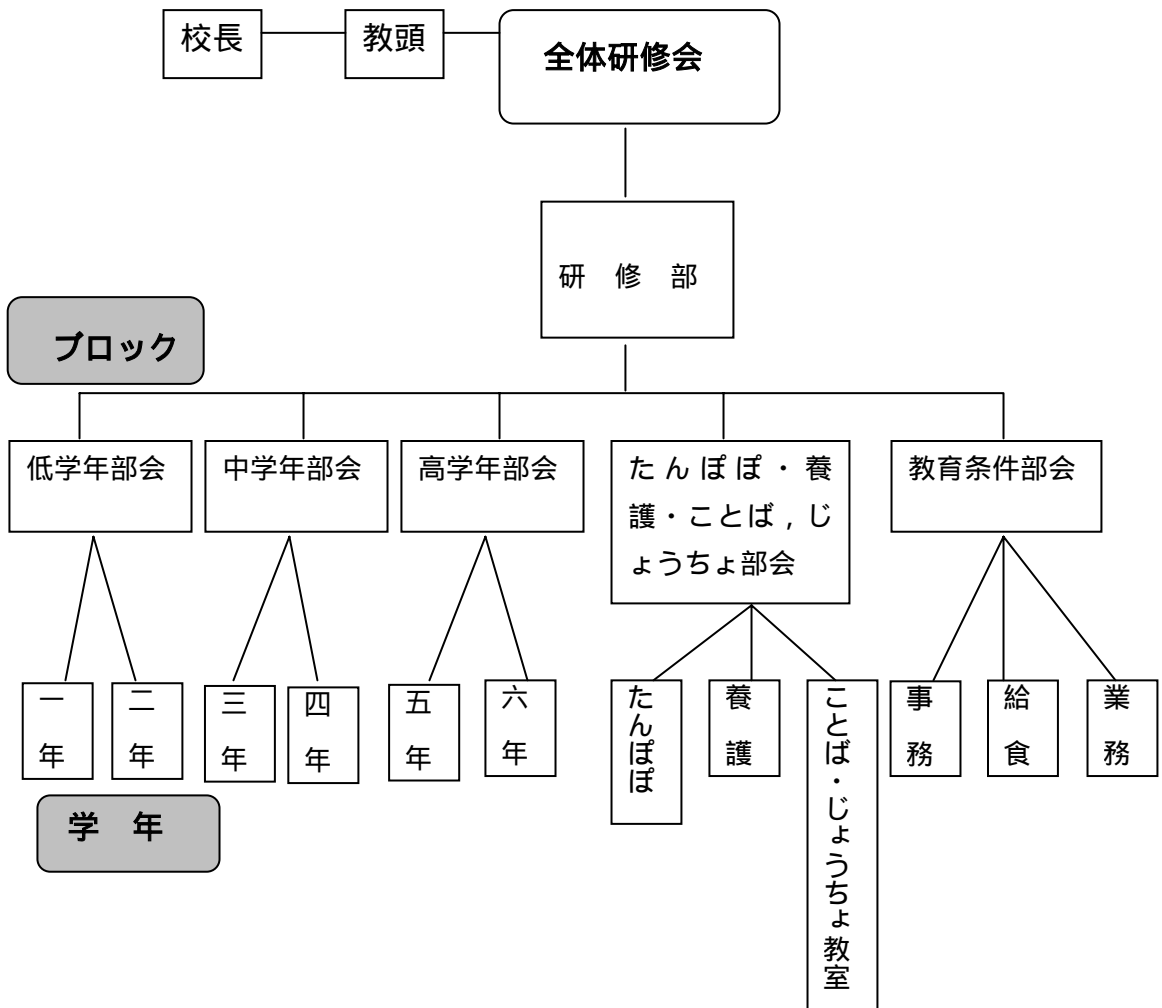
まちぐるみ教育の推進・情報交換

各分掌部

体力の向上・あいさつと清掃活動

研究組織

1 研究組織図



2 研究について

専科は、それぞれ学年に所属する。

たんぽぽ・養護・ことば・じょうちよ部会は特別支援教育を中心となって推進していく。

教育条件部会は、人権教育推進方針に沿った研修を行う。

研究、実践する内容によって学年単位やブロック単位で進める。

努力事項の取り組み

1 研究主題

確かな学力を身につけ、自ら考え、活動する子どもの育成

～ 言語活動を通して、表現力を高める～
算数科を中心に

2 研究主題設定の理由

本校では、平成16年度から算数科・平成19年度から体育科を通して学力の向上を目指し、「確かな学力を身につけ、自ら考え活動する子どもを育てる」の研究主題を設定し、「心と体の元気な子」の育成に取り組んできた。基礎学力の向上としての取り組みでは、授業の工夫とともに「牛田ドリル」や「いきいきタイム」などの反復学習の成果より、計算や知識・理解の力は十分に力をつけている。本校児童の「基礎・基本」定着状況調査や「全国学力・学習状況調査」の結果において、平均を上回る結果が出ている。しかし、内容を的確に読み取ったり、自分の考えをまとめて書いたり表現したりする力が充分とはいえない児童もみられる。さらに、言語力が乏しく、お互いの学び合いやかかわり合いにおいても豊かなコミュニケーションが図りにくい実態もある。また、どの子も授業が楽しいと感じ、自主的に課題に取り組んでいるとは言えないところがある。

そこで、児童が生き生きと活動し、日常生活のあらゆる場面において言語に関する能力を高めていく「言語活動の充実」に取り組み、「思考力」「判断力」「表現力」などをはぐくんでいくことが必要であると考え、昨年度より各教科で「言語活動を通して表現力を高める」研究を進めてきた。本年度は、自分の考えを持ち、それらをまとめる力や自分の言葉で表現する力を身につけさせ高めていかせるために、研究教科を一つにし、研究の視点を設定して、研究を深めていきたい。

以上のような理由から研究主題については、算数科を中心に言語活動を通して表現力を高める研究を進めることとした。

3 研究主題について

言語活動について学習指導要領には次のようにある。新学習指導要領「総則」の「第1節 教育課程編成の一般方針」に育成すべき学力（基礎的・基本的な知識・技能の習得 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等 学習意欲）を明示するとともに、「言語活動を充実」させることの必要性が示されている。そして、学習指導要領第1章総則第4の2（1）には、

各教科等の指導に当たっては、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の能力の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童の言語活動を充実すること。

とあり、各教科において指導内容や指導事項で言語活動を例示し、言語に関する能力の育成を重視し、各教科等において言語活動を充実することとしている。言語活動を通して児童の言語能力を高めることは、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことにつながり、他者や社会とかかわる上で必要な力を身に付けることにつながると整理されている。

言語活動の充実を通して、「表現力を高める」とは、具体的にどう考えていけばよいであろうか。文部科学省に設置された「言語力育成協力者会議」の議論の過程において、「表現力」について、次のような意見が掲載されている。“表現する力とは、表現すべき内容と表出方法の二つである。”つまり、表現力とは、児童が何を表現したいか、表現する内容を教科学習等の中から選択し、それを相手との関係の中でどのような方法で伝えるかということであり、内容と方法が相手に理解されたとき、児童本人の表現力が向上したといえることができる。

したがって、表現したいこと、伝えたいことが豊富に存在する教育活動が展開されなくてはならない。一方的な説明や単純な作業的内容に偏ってしまえば、児童が表現したいという意欲も自ら萎えてしまう。一つの教材との出会いが、多様性に満ち、好奇心や意欲をかき立てるものであれば、自ずと教育活動が活性化し、そこで得られた様々な体験の蓄積は、児童の言語を通して、他者に伝えられていき、さらに、そのことを通して他者から児童にフィードバックされることであろう。本校の研究主題の副題の意味するところはそういったところにあると考えている。

次に、算数科について考えてみたい。算数科の目標は、次に示すとおりである。

「算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しを持ち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。」さらに、言語活動については、次のようにふれられている。

算数科での「言語活動の充実」は、「言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする」が重視されている。このことと算数科の目標をみたとき、「算数的活動」を通して基礎・基本を習得すること、そして、習得を通して得られた力で具体的事象について筋道を立てて考え、表現する力を育てるとなっている。これは、本校研究主題の副題の基本的な考え方に整合するものである。つまり、算数的活動を通して蓄積された豊かな体験を児童が自ら言語化し、それを他者に表現するというプロセスが、極めて明確に示されている。また、筋道を立てて考えるという論理性を要求していることは、体験を言語化するに当たっては、極めて効果

的であると考えられる。

さらに、算数科という教科は、新学習指導要領がねらっている、思考力、判断力、表現力のより一層の育成という面から言われている、習得 活用 探究という学習(指導)プロセスが明確に位置づけられるものと考えられる。つまり、教科学習で得られた知識及び技能をまずは教科の言葉で表現(「習得」)し、それを自分なりの知識や経験に照らして別の言葉で表現し直したり、新たに調べて付け加えたりして(「活用」)、他者との交流の中でより深めていく(「探究」)という指導展開が明確化されやすいと考えられる。なお、このようなプロセスは、教科指導のみではなく、コミュニケーションスキルの向上や感性、情緒の基礎でもあることから、豊かな心を育てていくうえでも有効である。

23年度は、昨年度に継続して、副主題として「言語活動を通して、表現力を高める」算数科を中心に と設定し、算数科における言語活動を取り入れた授業づくりをして確かな学力を身につけさせ、主題に迫りたいと考えた。

4 研究の内容

(1) 研究の視点

言語活動に視点をあてた授業づくり

授業の中に言語活動をどのように取り入れたか。

言語活動を通して、自分の考えを表現できたか。

(2) 研究の計画(3年次計画)

1年次(23年度)・・・「表現したいこと、伝えたいことがある算数の授業」

2年次(24年度)・・・

3年次(25年度)・・・

成果・課題をふまえ、さらに深い授業づくり
学習評価の在り方の研究

(3) 研究の方法

言語活動に視点をあてた授業づくり

各学年で、教材研究を行い、公開授業をふくめた授業実践を行う。

新学習指導要領の「総則」と各学年の「算数科」の正確な理解

言語活動を中心に、学習指導要領解説にある指導内容と指導事項等について正確に熟読し、学習のプロセスを明確にする。

学習評価

言語活動や表現力をどう評価していけばよいか、課題を明らかにしていく。

言語環境の充実

児童の言語活動を適正にするために学校全体で望ましい言語環境に整える。

図書室の活用の仕方と本の充実

校内の掲示物（正しい文字や使い方，効果的な掲示など）

板書や発問・教師の話し方

ノートの活用の仕方

（４）研究授業について

提案授業について

全体公開授業 → 1・3・5年生は，提案授業を行う。

（全員参加で協議会を行う）

公開授業 → 2・4・6年生は，公開授業を行う。

（同部会は，参観し，協議会を行う）

公開授業にあたっては，全職員に指導案を配布する。

全体公開授業は，木曜日（ ）に実施し，外部講師を可能な限り招聘する。

（別紙年間計画による）

公開授業の仕方について学年で検討して行う。

参観授業について

観察授業や師範授業など公開授業として自主的に参観できるものとする。

（５）指導案の形式について

科学習指導案

指導者

1 日時 平成 年 月 日（ ）第 校時

2 学年 第 学年 組 男子 名 女子 名 計 名

3 単元名

4 単元について

単元のねらい

教材解説と身に付けたい力などを記述する。

言語活動のねらい

つけさせたい力と言語活動（算数的活動）を記述する。

児童の実態

児童の日頃の実態や言語や表現力の実態など記述する。

授業づくりの意図

とり上げた単元について，研究の視点に関して学年で意図した内容を記述したり，期待する児童の姿を記述したりする。

5 単元の目標

6 算数的活動と言語活動

単元についての 取り入れる主な算数的活動の工夫と活動内容を明確にする。

7 学習評価

8 単元の計画と活動のながれ

時間扱い

第1次

第1時

.....

時間

時間(本)

9 本時の学習

(1) 本時の目標

.....できるようにする。

.....

主な言語活動		
.		
.		
学 習 活 動	指導上の留意事項	評価
1する。しようとして いる。

5 研究日

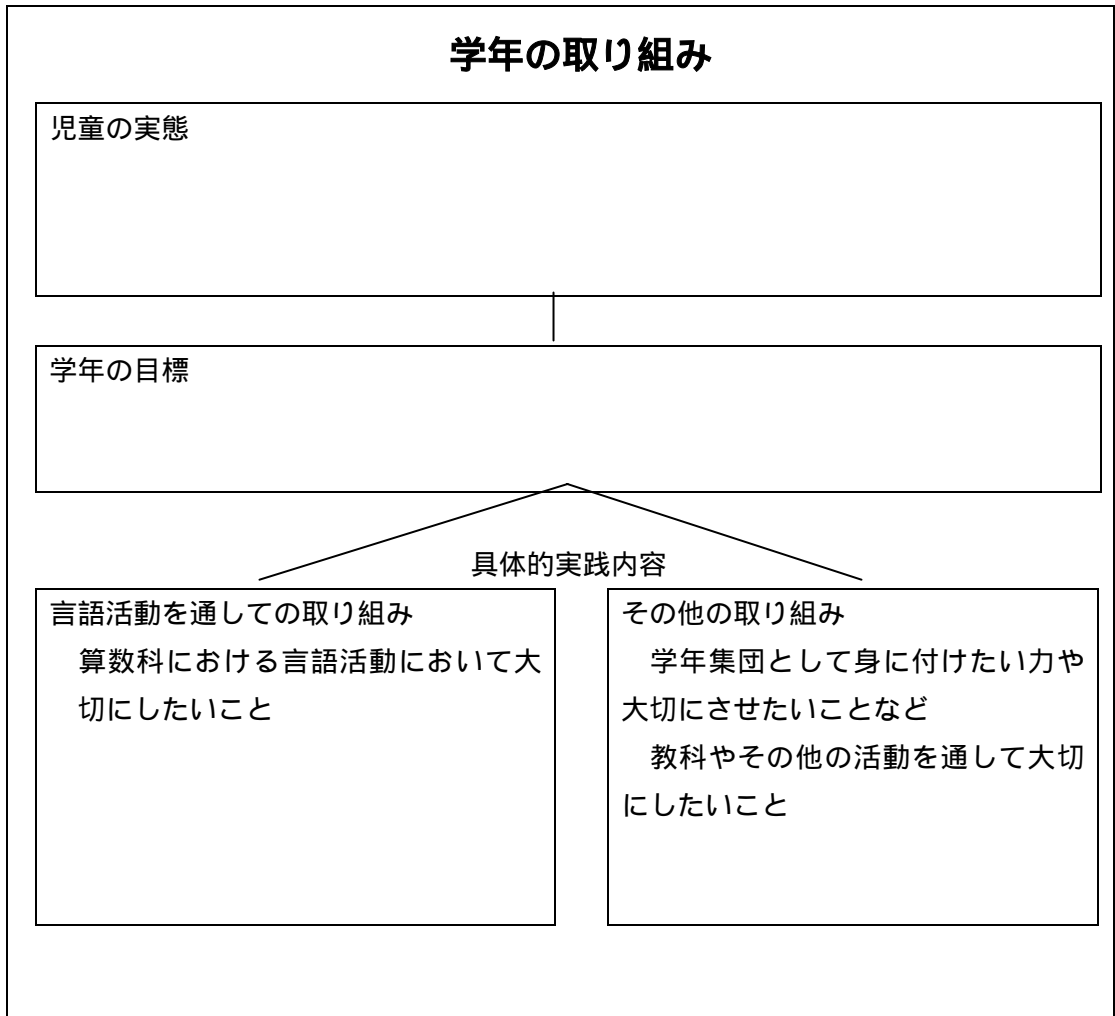
毎週火曜日の放課後を利用し，学年または，部会で研修を行う。

毎週金曜日は学年会とする。

6 学年実践計画の作成とまとめ

(1) 学年研究計画作成

以下のような内容について年度当初に実践計画を作成する。(5月31日までに作成)



- ・実践したことは，各自研究ファイルに綴じてまとめる。
- ・印刷物は80部用意し，60部配布し，20部は研修部が保管し年度末にまとめる。

7 基礎学力向上の取り組み

国語（言語）の基礎的・基本的知識・技能の習得

「いきいきタイム」や朝の業前時間など、学年で内容を決めて取り組む。

（例）音読や群読，視写，漢字学習，暗唱など

牛田ドリル

牛田ドリルの取り組みは，継続して行う。問題は印刷原稿をファイルにして所定場所におく。また，サーバー 2 の研修部のファイルより活用する。

- ・一括してファイルに綴じたり，牛田ドリル用のノートを用意したりして，繰り返して計算練習に取り組む。
- ・学年で曜日や時間を決め，朝の時間・帯時間などに発達段階に応じた量の計算練習を実施する。

など発達段階に応じて効果的な使用方法を検討しこれまでの取り組みを継続する。

T.T 授業・少人数指導の充実

これまで実践に取り組んできた，個に応じた指導，思考力を高める指導等についての成果を生かして今後も実践を積み重ね，算数科の基礎学力の定着と向上を目指す。

朝読書の充実

業前の時間（8：30～8：40）毎週月曜日と朝会のない火曜日に全校一斉に，静かに読書し，集中力や語彙力を高める。

[読書タイムの約束]

始まるまでに，自分が読みたい本を選んでおく。

8：30 までには席について読書を始める。

8：40 まで，声を出さずに静かに読む。

読書タイム中は席を立たない。

本をたくさん読んで心が豊かな自分をつくろう。